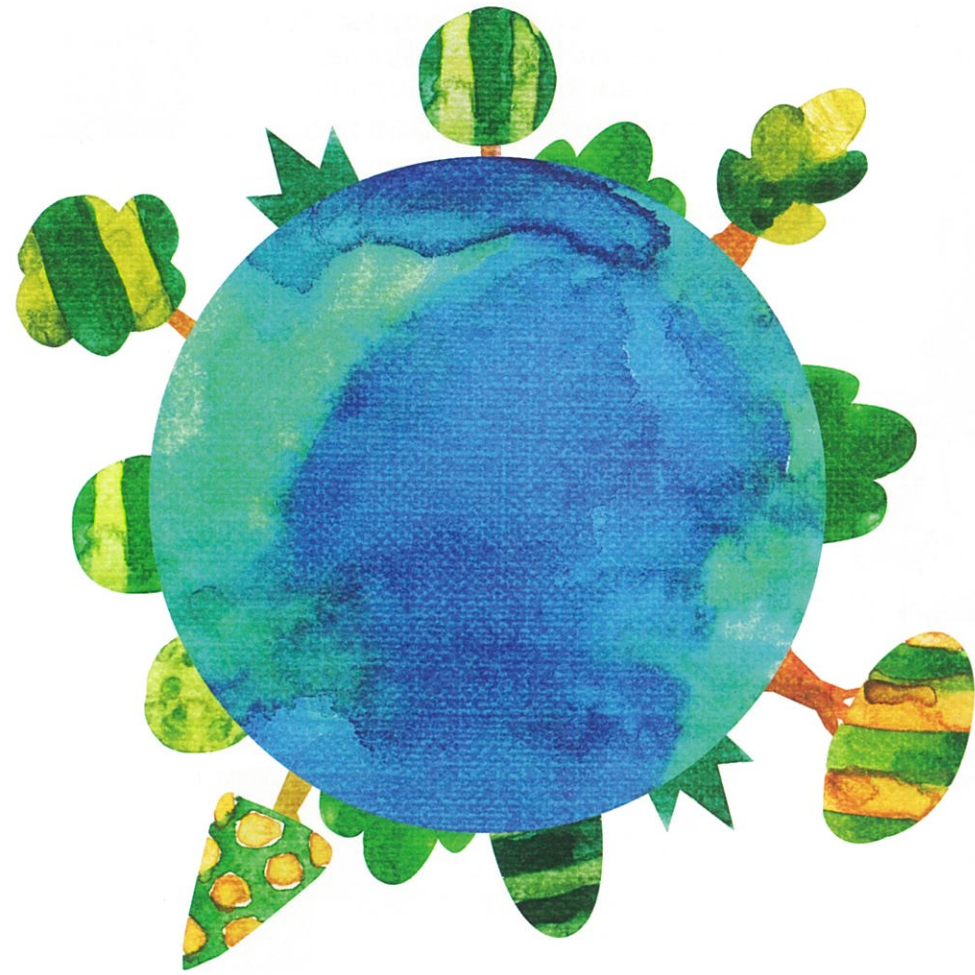


同志社大学省エネルギー推進委員会  
同志社エコプロジェクト(DEP)



Doshisha Eco Project



同志社大学省エネルギー推進委員会  
同志社エコプロジェクト(DEP)

mail. jt-hozen@mail.doshisha.ac.jp

URL. <http://environ.doshisha.ac.jp/dep/index.html>

## 同志社エコプロジェクト

年間報告書 2014

## はじめに

### 野口 範子

同志社大学生命医科学部教授  
同志社大学環境保全・実験実習支援センター所長  
省エネルギー推進委員会委員長

本学は、2007年に省エネルギー推進委員会のもとに、学生の環境団体である同志社エコプロジェクト(以下、「DEP」: DOSHISHA ECO PROJECT)を設置して以来、大学と学生が協力して、学内外の省エネ活動やごみ・廃棄物、自然環境保全など多様な活動に取り組んでまいりました。

DEPの主な活動である省エネの分野では、2013年度に今出川校地における大規模な校舎増設の影響もあり、残念ながら大学の省エネ目標を達成できませんでした。学生たちは、毎年夏と冬の省エネの啓発活動、教室内の温度測定やアンケート調査などに精力的に取り組んでいます。次期の省エネ活動では、学生たちとも協力し、ぜひ目標を達成したいと思っています。

学生たちの活動は、省エネ以外にも留学生との交流による「エコクッキング」、地元の子供たちとの自然体験学習、イベント参加によるエコグッズ制作、世界学生環境サミット報告会&ワークショップ、京都市、京田辺市と連携した環境フェスティバルや地域の祭りへの参加、協力など多彩になっています。

これからも学生らしい自由で柔軟な発想から、学内外に限らず世界の環境問題の解決に向けて、積極的に取り組んで欲しいと大いに期待しています。

### 久野 真由子

第8代同志社エコプロジェクト代表  
同志社大学 経済学部4年生

環境問題は世界的に、かつ多岐にわたってその深刻さを深めています。“think global act local”という言葉がありますが、私たちは環境問題を世界的な視野で捉えながらも、まずは足元である自分たちの周囲からアプローチしていく必要があると考えます。

今年度もDEPでは、学内と学外に向けて活動を展開していきました。特に「継続」を大切にし、昨年度からの企画や新しい企画も回数を重ね、実践を重視することで、質を高めながら活動を行ってきました。

学内では省エネ啓発や寒暖MAP掲示を継続して行い、またEVEにおいてはリサイクル容器の使用店舗数を昨年から拡大させました。また、学外では地域との連携を大切にし、京都府や京都市上京区役所、京田辺市役所と共同で、イベントや講演会を実施するなど、市民の方々に対する啓発活動にも力を入れてきました。

何かを変えることは容易ではありません。環境問題という壮大なテーマに対しても、一步一步のアプローチから始まります。そのためにも、まずは私たち自身が成長し、少しでも影響力のある学内外での環境問題の解決に向けた実践と発信を行っている団体を目指してまいります。

# C | O | N | T | E | N | T | S



1	DEPとは	8	EVE	12	個別プロジェクト報告 +E
2	プロジェクト紹介	9	個別プロジェクト報告 WSEN	13	個別プロジェクト報告 Fourk
3	2014年度活動紹介	10	個別プロジェクト報告 GC	14	社会連携
4	省エネ活動	11	個別プロジェクト報告 Create	16	夏合宿
7	全体会				

## 同志社エコプロジェクト(DEP)とは

### 理念

同志社大学において、学生・大学が共に環境問題を世界的視野で捉え、その問題解決に向けた活動を実践していく。そして、その成果を社会に対して還元していく。

### 方針

「エネルギー」「廃棄物」「自然環境」の3分野に軸を置き、各分野の環境問題解決に向けて大学の特性を生かした多面的・継続的アプローチを行っていく。

### あすみちゃん

あすみちゃんは、DEPのキャラクターです。「あすみ」という名前には「明日美」「明日見」「Earth美」など、DEPの活動方針を大きく、また広義に表しています。



## DEP組織図

同志社エコプロジェクト(DEP)は「同志社大学省エネルギー推進委員会」の下に環境活動を行う大学組織として、2007年に設立されました。

「環境保全・実験実習支援センター」によるサポートを受け、学生メンバーは運営と活動に励んでいます。活動体系は、省エネ活動や広報活動などの全体活動と環境教育や映像制作などの特定のアプローチに特化した個別プロジェクトの2つを軸として、多角的な活動を展開する形としています。



project



## 個別プロジェクト紹介

DEPの学生メンバーは全体のプロジェクトの他にいくつかの個別プロジェクトに所属しそれぞれの個性を活かした活動を行っています

# +E

+Eは、環境教育と自然環境保全活動を行うプロジェクトです。+EのEには、Environment、Education、Enjoymentの3つの意味が込められており、学生ならではの環境教育プログラムを開発し、感じ、考え、動き出すきっかけを子供たちに与える活動をめざします。今年度は、学園祭で子供たちに環境問題になじんでもらえる企画を行いました。次年度は、小学校での環境教育活動を行う予定で準備を進めています。

# GC

GCは、Global Communicationの略で、国際交流を通じて環境意識を広めるプロジェクトチームです。国際的な視点を持ち、留学生を巻き込んだ環境活動を行っています。今年度は、地産地消「エコクッキング」を留学生と一っしょに実施し、美味しい料理を堪能しながらフードマイレージなど環境問題を考えました。

# Fourk

Fourkは、多角的な分野から、長期的、継続的な活動を行い、地域にライフスタイルの変革をもたらすというビジョンと学生主体で環境問題の考察と実践を行い、社会の環境意識の向上をめざすというミッションを掲げています。今年度の主な活動は、京田辺市の環境フェスティバルに参加し、地域との連携を深めました。

# Create

Createは、ゴミや廃棄物を活用した工作を行い、作品にふれた人が自然や季節を日常で意識することで、自然に対する潜在的な愛着を顕在化させ、「楽しいこと・好きなこと」「環境にやさしいこと」を結びつけることを目指します。今年度は、京都市で「平安楽市」参加、学園祭でのリサイクル工作を行いました。

# WSEN

WSENは、今年度立ち上げた新しいチームです。WSEN(World Student Environmental Network)は、2008年から世界の大学の学生が地球温暖化や生物多様性などさまざまな環境問題について、年一度開催される国際会議で議論するプログラムをサポートするネットワークです。WSENネットワーク会議をはじめ、活動はすべて英語で行います。



activity schedule



## 2014年度活動紹介

2014年度のDEPの活動を紹介します

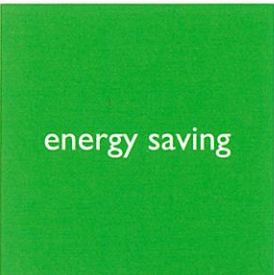


### 全体活動

- 4月期
  - 新入生勧誘活動
  - 4月期全体会
- 5月期
  - 5月期全体会
- 6月期
  - 6月期全体会
  - 「エコクッキング」プレ企画
- 7月期
  - 7月期全体会
  - 省エネアンケート実施
  - 寒暖MAPの作成
- 8月期
  - 8月期全体会(夏合宿)
- 9月期
  - 9月期全体会
- 10月期
  - WSES 2014報告会 & ワークショップ
  - 10月期全体会
  - 上京区民まつり
- 11月期
  - クローバー祭
  - EVE
- 12月期
  - 12月期全体会
  - ecocon 2014
- 1月期
  - 1月期全体会
- 2月期
  - 2月期全体会
  - NPO法人気候ネットワーク 全国シンポジウム参加
- 3月期
  - 3月期全体会
  - 年間報告書2014作成

### 個別プロジェクト活動

- [Create]大阪府立大学環境デー参加
- [Create]平安楽市リサイクル工作
- [GC]地産地消エコクッキング
- [Create]平安楽市リサイクル工作
- [Fourk]京田辺市第3回環境フェスティバル
- [Create]平安楽市リサイクル工作
- [GC]地産地消エコクッキング
- [GC]地産地消エコクッキング
- 新入生勧誘活動準備
- [+E]京田辺市立小学校環境学習準備
- 新入生勧誘活動準備
- [+E]京田辺市立小学校環境学習準備
- [WSEN]サステナブルキャンパス構築 国際シンポジウム参加
- [+E]京田辺市立小学校環境学習準備
- 新入生勧誘活動準備



### 省エネ

効果的な省エネおよび温室効果ガス抑制の具体的な成果を出すための学生の視点から考えたさらに実践的な活動

### 省エネ活動とは

DEPでは全体活動の一つとして、大学の省エネ活動に取り組んでいます。それはそもそもDEPが存在する理由とも繋がっています。同志社大学では、「同志社大学省エネルギー推進委員会」が省エネ法の遵守や社会貢献のために大学の省エネルギー化やエコキャンパス化に取り組んでいます。そこで、学生と大学の仲介役となり、実働的な活動を推進していくためにDEPが設立されました。そのためDEPでは、2008年よりエアコンの設定温度を夏は28度、冬は20度に一律で設定することを教職員と学生に啓発する活動を行っています。具体的には立て看板やポスターでの周知活動、また温度設定に関するアンケート調査です。また、同調査を通じて、より28度設定の環境下でも学生が快適に講義を受講できることを目指して、昨年度から室内体感温度の指標となる寒暖MAPの作成に取り組んでいます。

### 活動紹介

**教室の温度設定に関するアンケート**  
エアコンの温度設定に対する学生の反応を把握し、今後の省エネの方針を見直すことを目的とした活動です。京田辺と今出川の両校地でアンケート調査を実施すると同時に、教室内の湿度と温度を15分ごとに測定する調査を行いました。時間や天候、教室の大きさなどの様々な条件を変化させて学生がどのように感じているか調査しました。

**寒暖MAP**  
28度設定の環境下で、自身の体感温度にあった座席を、学生自ら選択してもらうためのMAPです。MAP上には教室内に存在する暑い場所、寒い場所、風量を可視化しています。暑がりの人はエアコンの風が当たりやすい席を、寒がりの人は周囲より暖かい席を選び、より快適な学習環境の実現を目指しました。

**啓発活動**  
冷暖房の一律温度設定を周知するための立て看板と、ポスターを両校地に設置しました。これは学内の方に取り組むへの理解と協力を得る為の活動です。また、京田辺校地の知真館1号館ロビーに設置されている液晶パネルでも屋上に設置した太陽光パネルの発電量など、省エネに関する情報を掲載しています。

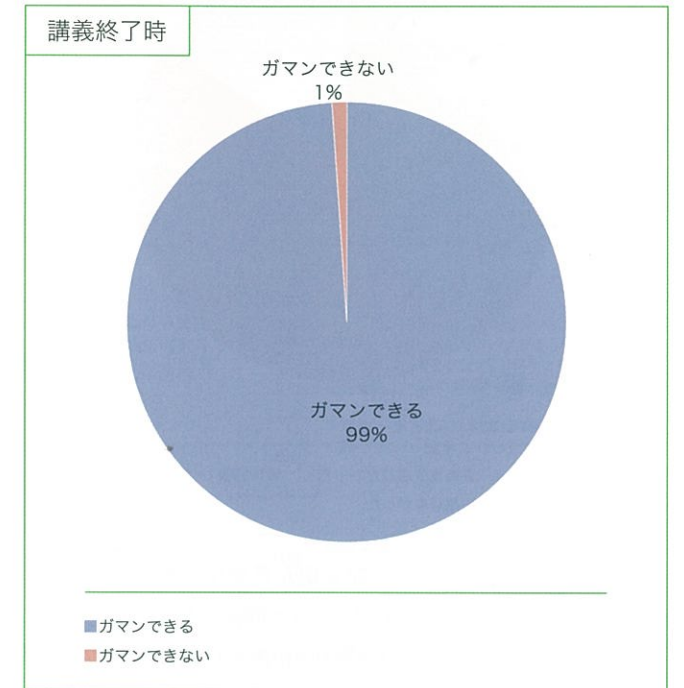
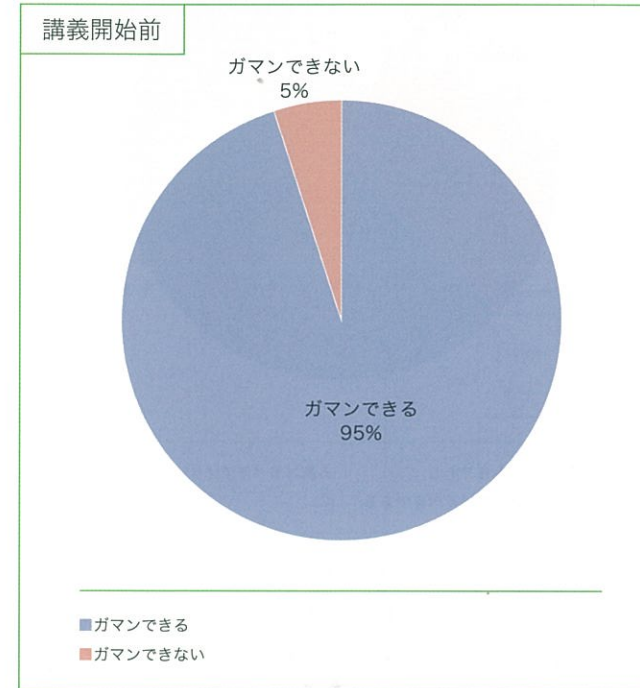
**報告書の作成**  
アンケート調査や温度・湿度調査の結果を基に報告書を作成し、省エネルギー推進委員会に提出します。これを基に、大学の省エネルギー化の促進を図ります。

**2013年度からの成果**  
これまでは授業中の体感温度について、「適切ではない」と感じていた学生が多くの割合を占めていましたが、今年度はほとんどの学生が「ガマンできる」と感じていることがわかりました。これは、教室の温度が一律設定で集中管理されていること、また、「28度設定では暑すぎる」との多くの意見から、教室内の温度設定が低く設定され、快適な環境がつけられていることからわかります。これまで28度設定であるとの前提の元、活動を模索してきた省エネ活動ですが、次年度以降、この現状を踏まえた新たな打開策を打っていく必要があります。



### アンケート結果

## Q この温度でガマンできますか？



講義開始時と講義終了時の体感温度を調査したところ、ほとんどの学生が現在の温度設定で「ガマンできる」と感じていることがわかります。

講義開始時から講義終了時にかけての体感温度の変化を見てみると、「ガマンできない」と回答した学生が減り、「ガマンできる」と感じる学生が増えていることが

わかります。これは、講義開始時には教室移動や通学の際に体を動かしていたため、その名残があると考えられます。授業を受ける間に体の動きが落ち着くと、授業終了時には、体感温度も同時に落ち着くことがわかります。このデータと2011年度のデータを比較すると、2011年度は講義開始時には約4割の学生が温度設定を

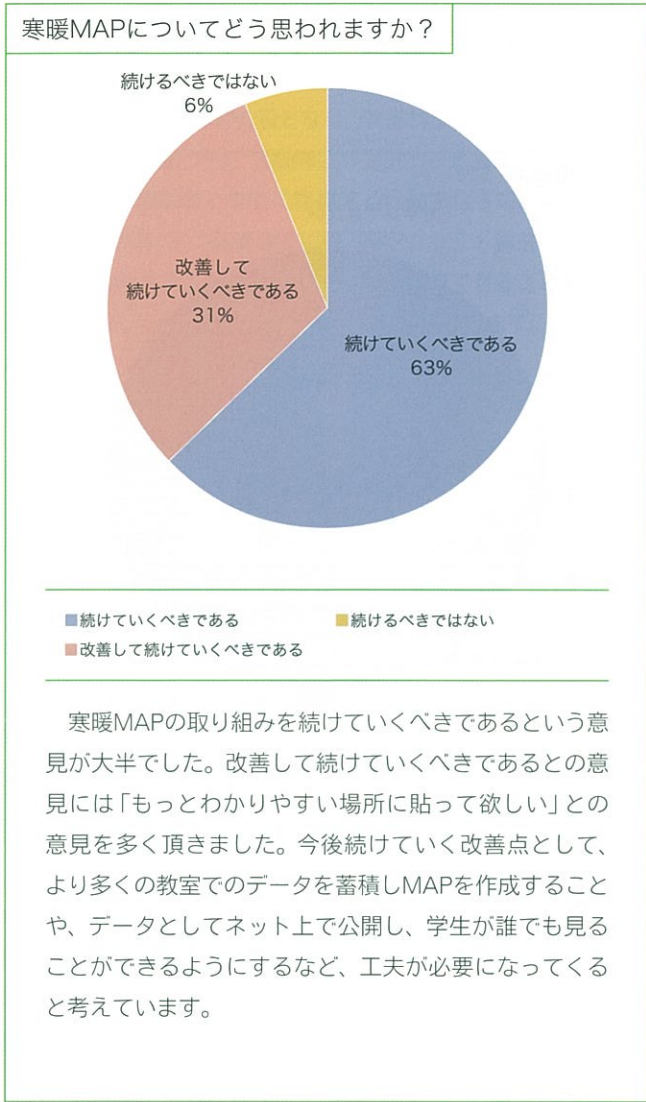
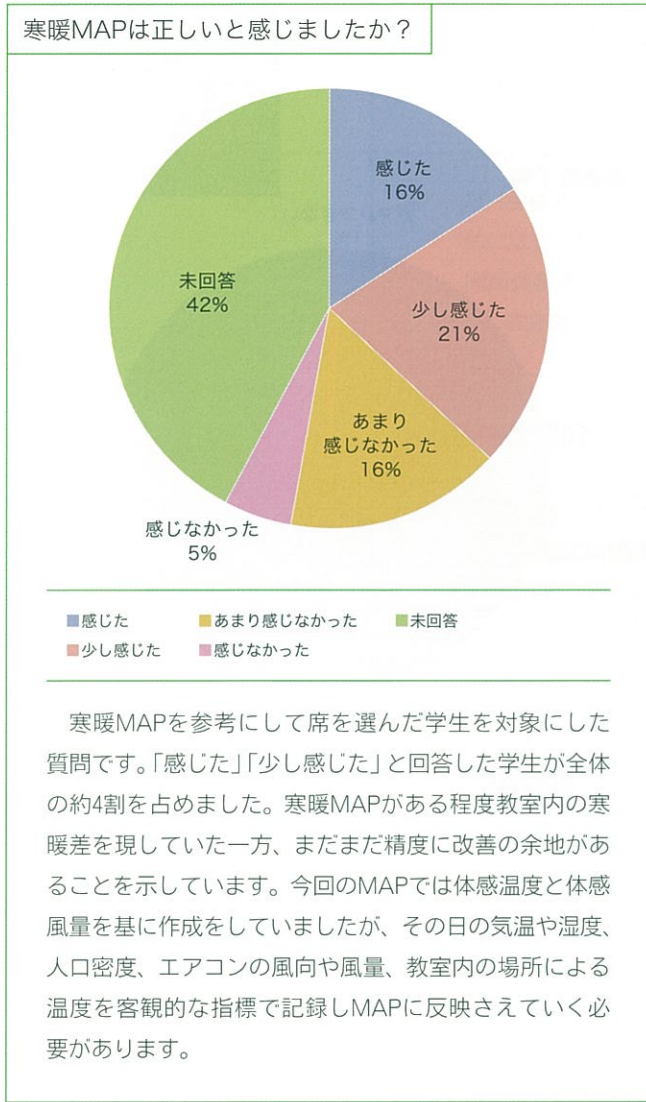
「ガマンできない」と感じていたことに対し、今年は圧倒的に、現在の温度設定でも「ガマンできる」と回答した学生が多いことがわかります。ではその原因はなんなのでしょう。



今年度の各教室の温度設定を確認したところ、多くの教室で28度以下の温度設定の下、講義をされていることがわかりました。これは、28度設定では暑すぎて講義ができないと多くの教員から要望があったからでした。大学の省エネルギー化をどのように進めていくか、課題が浮き彫りとなった今年度の調査結果となりました。



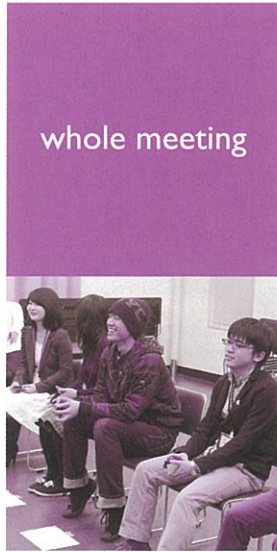
## アンケート結果



## Q 教室ごとや気温ごとにエアコンの温度設定を調整することはできませんか？

教室によっては建物ごとに温度設定を一律で管理しているので、教室ごとに温度設定を変更することは簡単ではありません。また、温度設定をその日の気温や湿度によって変えることは、そういった理由や、一律設定がなされていない建物内でも、時間ごとに調整することは難しいです。より良い授業環境のためにも、何かしらの対処を模索しています。

教室	回収数	校地回収数	全体回収数
今出川	RY202	254	932枚
	RY104	252	
	RY203	426	
京田辺	TC-202	128	198枚
	JM301	70	
			1130枚



## 全体会

月に一度DEPメンバー全員が参加する全体会について紹介いたします

## 全体会とは



全体会とは、月に一度DEPメンバー全員が参加する集会のことです。ここでは、各月ごとの全体会と全体会をくださった期間に行われた個別プロジェクトの活動報告をし、全体で行う活動を考えたり、メンバーひとりひとりのスキルアップを自指したワークショップを行ったりします。全体会の運営は、その月ごとに異なるDEPメンバーが行い、日頃行っている活動がより良くなることを第一に考えています。

## 2014年度全体会一覧

- 4月期** DEP生活一日目！新歓で初めてDEPの活動を体験する新入員の方々に対して行うオリエンテーションワークショップが中心。
- 5月期** 省エネ期間目前！メンバーのエネルギー問題に対する意識の向上、エネルギー問題に関する環境知識の強化を目的としたワークショップを開催。
- 6月期** GCで今年度秋学期以降行う「エコッキング」企画のプレ企画。今まで学内で行っていた全体会と打って変わって、街頭へ出てフィールドワークを行うなど新鮮な内容。
- 7月期** 夏休みに毎年行う夏合宿にむけてのオリエンテーション。夏合宿当日までの事前学習をDEPメンバー全員で取り組み、環境知識の向上を図る。
- 9月期** 第9代DEPリーダーを選出するリーダー選挙。来年度DEPで行う活動をDEPメンバー全員で考える機会となった。
- 10月期** 上京区民祭への参加。外部での廃棄物処理問題への環境啓発活動をDEPメンバー全員で実践。
- 12月期** 今年度DEPへ加入した1回生メンバーによる環境知識の向上を目的としたワークショップを開催。1回生は初めての全体会運営で、上回生に対して「地球温暖化懐疑論」について議論する場の設置を勧め上げた。
- 1月期** 来年度予算審議。来年度活動内容の活動承認をDEPメンバー全員で行った。
- 2月期** DEPに所属していた卒業生のOPの方々や環境知識を深めるクイズ大会、交流会を実施。
- 3月期** 2014年度4回生のDEPメンバーによる、DEP在校生に向けて行う全体会。

※8月期、11月期は休会

## 6月期全体会



2014年度GCで行う企画「エコッキング」を、同志社大学の留学生ではなく、DEPメンバーに向けてプレ開催しました。

当日は、DEPメンバーに対して日頃身近な料理の場で行うことのできる環境活動として「地産地消」の概念や「エコッキング」の実践を紹介し、食事の中で併発する環境問題に対するの解決への取り組みを呼びかけました。

グループごとに分かれたDEPメンバーは材料を購入しに錦市場へ赴き、地産地消がテーマなので、京都で作られた京野菜を中心に京都産のものにこだわって材料を選んでもらいました。

その後、NPO法人四条京町家さまへおじゃまし、地産地消について詳しく説明したプレゼンテーションを参加者に対して行った後、本格的な京都の町家でのエコッキングの実践を行いました。エコッキングではできるだけゴミの出ない調理法にこだわり、みんなで協力して調理しました。

今回の全体会は今までの全体会とは打って変わって、環境問題の啓発活動と実践をうまく組み合わせることができた貴重な全体会でした。今後もこのような、楽しく学べる全体会のワークショップが実施されることをのぞみます。





## EVE紹介

2014年11月に  
今出川キャンパスで行われた  
同志社EVEを紹介します

### 活動概要

11月26日～28日に今出川キャンパスで行われた同志社EVEにて、DEPメンバーがリサイクル活動を行いました。ご存知のように、学園祭では大量のゴミが出ます。そのゴミを少しでも減らす為に、私たちは4つの活動を実践しています。



1つはゴミ箱の前に立ち来場者の分別の誘導をするゴミナビゲーション。これをするかしないかで、ゴミの分別率が大幅に変わってきます。今年は昨年よりも動員数を増やし、ごみ分別を徹底しました。



2つ目は割り箸のリサイクル。これを集め、きれいなものを選別することで、再生紙にリサイクルすることができます。

3つ目は廃油の回収とリサイクル。揚げ物をした後の廃油はそのまま捨てると水を汚してしまうことに繋がり、スプーン一杯分の廃油を生活用水に捨てると浴槽一杯分の(300ℓ)の水が必要になります。リサイクルされた廃油はバイオディーゼル燃料にリサイクルされます。最後に昨年開始したリサイクル容器の販売と回収です。昨年から継続して使用するフィルムが表面上に貼られているフィルムトレイと、捨てられるはずだったパームヤシの搾りかすを原料にしたエコトレイを今年度から導入しました。認知度も昨年から徐々に上がっており、継続した活動の効果を実感しています。

### 成果

	割り箸の回収量	廃油の回収量	エコトレイの回収量
2012年	40.00kg	271ℓ	—
2013年	18.79kg	127ℓ	購入店舗数：12店舗 フィルムトレイ(7300枚 回収率35%)
2014年	23.00kg	236ℓ	購入店舗数：20店舗 フィルムトレイ(4000枚 回収率45%) +パームヤシトレイ10650枚
ゴミの総量 約1800袋分 約3.8トン			

### 総括

今年度は昨年までの活動を継続し、さらに拡大させた年となりました。ゴミナビゲーションでのゴミの分別をゴミ箱への配置人数を増やすことで徹底し、割り箸やエコトレイの回収率を向上させました。また、エコトレイは新たな種類のトレイを採用し、導入店舗数を拡大させました。同志社EVEでの活動は、地道で泥臭いものですが、華やかな学園祭の裏で行うその一步一步が、ゴミの減量化とエコ大学への一歩と繋がっていきと考えています。3日間出た大量のゴミの山を少しでも減らし、日常的なゴミ減量の啓発に繋がるよう、次年度も活動を展開していきたいと思っております。



### 個別プロジェクト WSEN

10月14日に今年度の世界学生環境サミット参加学生と同志社エコプロジェクトの共催で、「WSES2014報告会&ワークショップ」を開催しました。

#### 第一部 報告会

第一部ではWSES2014参加学生3名からWSESでの出来事や学んだことを報告しました。発展途上国から中進国になりつつある南アフリカでの環境と貧困の問題について、参加した活動の紹介をしてもらいました。

また、参加学生は、自分たちの専門分野である政治学、開発経済学、エネルギー科学の観点を交えて現地学んだことを発表することで、日頃の勉強を活かす機会にもなりました。

#### 第二部 ワークショップ

第二部では第一部の報告をふまえたテーマでワークショップを行いました。“Where Eill We Be in 2050?”を念頭に、「環境と教育」、「環境と観光」、「環境と起業」、「環境とエネルギー」について、自分たちができることをチームごとにディスカッションしました。大学、学部学科、国籍の異なる人々と意見交換をする中で参加者は刺激を受け、新しいアイデアも生まれました。

#### 第三部 交流会

第三部の交流会は、継志館地階のレストランで行われましたが、WSESでの出来事やワークショップで話し足りなかったことなどさまざまな話題や意見交換で盛り上がりました。

日頃から環境問題に熱心に取り組んでいる他大学の学生や留学生を交えた交流会は、国際交流と多文化間交流の貴重な場となりました。

来年度以降もWSESでの成果報告会とワークショップを行うことを誓って盛会のうちに閉会となりました。来年のオーストラリアのマドック大学で開催されるWSESでの同志社大学生の活躍が期待されます。





## 個別プロジェクト

GC  
Global Communication

GCとは  
世界中の環境問題に取り組む  
大学と情報交換を行い  
DEPの活動を  
世界に発信すると共に  
活動の場を世界に広げるための  
プロジェクトです

## 地産地消・エコクッキング



2014年度は10月・11月・12月にかけて3回の地産地消エコクッキング企画を行いました。

「地産地消」とは、ある地域で生産されたものはその地域で消費することを表し、「エコクッキング」とは、環境に配慮しながら、「買い物」「調理」「片づけ」をすることを表します。

まず、当日の流れとしては、実際に参加者と一緒に買い物に行き、生産地を見てもらい京都で近いところで生産された材料を購入し、地産地消について考えてもらいました。

次に、エコクッキングと地産地消についてプレゼンテーションを通じて「エコクッキング」「地産地消」を行うことのメリットなどを参加者に知ってもらいました。

また、プレゼンテーションの後、エコクッキングレシピを使って、エコポイントを考えながら参加者と一緒に調理をし、自分たちが作った料理を残さず食べ、最後片付けを行いました。

その後、実際に地産地消が世界各国でどのように行われているのか、世界各国の地産地消についてプレゼンテーションをし、日本だけではなく、他の国の取り組みを見ることで視野を広げることが出来ました。

最後に、クイズと意見交換でインプットする時間を設け、当日学んだことや感じたことをみんなで共有をし、さらに参加者が自発的に参加することができました。

この企画を通して普段分かっていても実践できなかったことについて新たに考えてもらうことができ、また留学生にとっては聞きなれていなかった「地産地消」について知ってもらうことができた企画だったと思います。ただ、概念について知ってもらうだけでなく、実際にみんなで行ってみることで実感できた企画で、これから省エネ活動に活用することもできるのではないかと思います。

## 2015年度のGC方針

2015年度のGCの方針として、昨年度に引き続き「環境知識・意識を持つ人がスタンダードとなり、地球人口=環境人口である地球を目指す。」というVisionと、「国際的な視点を持って活動を行い、学生を中心とした様々な人の環境意識・知識が向上する場を創出する。」というMissionを基盤において活動していきたいと思えます。

目標は、「GCメンバーの増員」、「参加者が10人以上いること」、「省エネ活動に関する知識が定着していること」、「Facebookにて参加者の50%以上の実践の確認ができること」です。

企画に取り入れたい構想・目的は、「参加者同士がそれぞれの出身国での食材の販売方法や、地産地消に関する知識を共有できること」、留学生には「2回目、3回目と来ていただいてGCとのつながりを深めてもらい、参加者を増やすのにつなげること」です。可能ならば「なるべく日本でしか味わえないものになりたい」と考えています。



## 個別プロジェクト

## Create

Createは2014年度を  
「環境検証の年」と位置付け  
同志社大学における環境活動の  
現状調査を行いました

今年は廃棄物をテーマに、リサイクル工作という一つの企画を継続して行ってきました。「継続した企画を行うことは参加者の意識を変えることに繋がる」ということを実感した一年でした。多くの人が楽しみながら日常生活の中でごみを減らせるような提案をこれからも続けていきたいです。

## 平安楽市



平安楽市とは、毎月第2土曜日に平安神宮付近にある岡崎公園で開催されている手作り市のことです。私たちはここで、9月から11月にかけてワークショップをさせていただきました。

内容は以下の通りです。まず、リサイクルの重要性と、リサイクル前の製品より良いものを作る「アップサイクル」という概念を簡単に紹介しました。その後お客様に実際にスノードームやくる

みボタンなどのリサイクル工作をしてもらいました。

毎月50人以上のお客様がお見えになりましたが、どなたもゴミ問題の話を熱心に聴いて下さいました。来場者の多くが小学校低学年のお子さんだったため、ゴミ問題を分かりやすく伝えるのに試行錯誤を繰り返しました。最終的には常連の子もたちが日本のリサイクル率を覚えてくれたり、家でもリサイクル工作をやっているという話を教えてくれたりと、自分たちの活動が実を結んだことを実感しました。

この企画で、継続することが効果的な啓発につながることを学びました。ただ、SNSを使って家庭で作ったリサイクル作品の募集をするなど、企画後も楽しめるコンテンツを用意できれば、もっと参加者に継続したリサイクルを促せたかもしれません。今後も改善を加えて環境啓発のワークショップを行ってきたいです。

## クローバー祭きっずぱれっとへの参加

2014年11月1日(土)、2日(日)に同志社大学京田辺キャンパスで行われた学園祭、クローバー祭に出展いたしました。当日は天候にあまり恵まれなかったのですが、両日ともに50人以上のお客様に来ていただきました。



内容は平安楽市と同じリサイクル工作のワークショップです。リサイクルに関するプレゼンをした後、スノードームなどのリサイクル工作を実際に行っていただきました。幼稚園や小学校低学年のお子さんにはプレゼンの内容が少し難しいのではないかとこの平安楽市での反省を踏まえ、小さいお子さん向けの紙芝居を用意するなど、楽しみながら話を聞いてもらえるように工夫しました。



工作は、平安楽市と同じくクローバー祭でもスノードームが大人気で、途中で品切れになってしまうほどでした。また、お母さん方にはくるみボタンが簡単に作れるということで人気がありました。



今回はお子さん向けの企画でしたが、これからは大人でも楽しめるようなリサイクル工作を提案していきたいと思えます。

+E



個別プロジェクト  
+E

+Eとは  
「Environment」  
「Education」  
「Enjoyment」を+(プラス)し  
身近にしていこうという思いを  
込めています

クローバー祭きつぱれっとへの参加



2013年11月1日(土)、2日(土)に同志社大学京田辺キャンパスの学園祭クローバー祭が開催されました。+Eは、同志社大学京田辺キャンパスの知真館1号館の1部屋をCreateとシェア分割して出店しました。主に小学生を対象とし、子供たちの食べ残しをなくすことを目的にこの企画は行われました。企画内容は、参加者に対して食べ残しに関する情報の載った紙芝居を行い、ゴミ問題について身近に感じてもらいました。

紙芝居のあと、食べ物に関するカードゲームに取り組んでもらい、そのカードゲームを通して、食べ残しによって失われてしまう栄養素について学びんでもらい、食べ残しは廃棄物問題と、自身の身体に両方に影響が及ぼすことを知ってもらいました。最後に、今後自ら行動を起こせるように、『食べ物博士メダル』の裏に食べ残しに付随するゴミ問題に対して、自分ができることを宣言として書いてもらいました。

この経験を通じて、子供たちの意識の変化を見ることができ、環境教育に対するやりがいを感じました。また、アンケートの自由記入項目で、参加者の親御さんからのご意見もたくさんいただき、参加者だけでなく、付き添いの親御さんへの啓発にもつながったことがうかがえました。

この一年間は来年度の小学校での環境授業に向けた準備を進めてきました。メンバーも新たに加わり、新たな+Eとして始動を始めた1年でした。クローバー祭により得た経験や、京都市立深草小学校及び京都府立西京高校での環境授業見学、京エコロジーセンターでのヒアリング等の外部の方からいただいた多くのアドバイスを来年度へと繋げていきたいと思っています。6年ぶりの小学校環境授業実施へ向けて良いスタートがきれました。

来年度活動方針

次年度は京田辺市内2校の小学校で環境授業の実施が決まっています。2009年度に同志社小学校で環境授業を実践して以来、6年ぶりの実施なので、それに向けたチームの再編を目指します。現在の小学生が環境学習で学んできた内容を把握した上で、小学校の要望、条件をふまえ企画を立案し、その後、先生方や市の関係団体と連携し企画をまとめていきます。授業を通して小学生が自然環境に愛着を持ち、日常生活と環境の関係性を認識できる内容にします。既存の教科書を用いた学習ではなく、実際の体験を通してより直感的・視覚的に学ぶことができる新たな環境教材及び環境教育プログラムの完成を目指します。

メンバー個人としては教える立場として環境問題に関する更なる知識の増加、児童をまとめる統率力、外部との交渉を通じて渉外能力の向上を目指します。



Fourk



個別プロジェクト  
Fourk

Fourk (ふぉーく)は  
京都市内でテーマごとに分かれて  
環境活動を考察し  
実践するプロジェクトです

11月16日(日)に私たち、FourKは、京田辺市立公民館で開催された第3回環境フェスタに参加しました。



私たちは2つの内容においてワークショップを通して啓発活動を行いました。一つはミツバチの失踪・減少問題から身近な解決方法として有機野菜を食べるメリット、もう一つは産業部門に次いで多い家庭部門の二酸化炭素排出量を減らすために家庭で行える省エネ方法です。



ミツバチによる食の安全のワークショップでは、ミツバチの失踪・減少は、私たちの食卓に上るような野菜・果物の減産を引き起こすことを、絵を使いながらわかりやすく伝えました。

これを防ぐためにミツバチの主死因となっている農薬を使わない有機野菜を食べるという方法を提案しました。今回は、単に知識を入れてもらうだけでなく楽しんでもらうため、ミツバチの副産物である蜜蝋を使ってキャンドル作りを体験してもらいました。

省エネのワークショップでは、暖房の効率的な使用法とその意味を省エネのお話として聞いていただきました。省エネと言ってもできることはたくさんあるのですが、今回のイベントの後、会場に来て下さったお客様が家に帰って意識してすぐにはできる環境対策の提案をしたかった。

また今回の開催時期が冬ということもあり、暖房の効率的な使用法とその意味という内容に至りました。今回のフェスタでは、お子様連れが多いこともあり、私たちがDEPの活動で普段なんとも思っていない当たり前だと思っている言葉や意識している問題をいかに興味を持ってコンパクトに分かりやすく伝えるかという点で苦労しました。

でもその分、第三者目線で環境問題を伝えることでより自分たちの環境への理解がさらに高まり、実際に当日のお客様からの「分かった!」「家に帰ってやってみます」といった反応で活動の意味ややりがいを感じる良いイベントとなりました。

また、大学外の環境での活動によりDEPのことを知ってもらえる良い機会になったと思っています。

環境フェスタの成果として挙げられるものは、啓発活動を行えた点および京田辺パートナーシップとの交流ができ、実際にどのような思いをもって活動されているのかをお聞きできた点です。

アンケートの結果としてはDEPの認知度はまだまだ低かったのですが、環境知識の獲得や環境意識の変化の項目について、向上したという結果が得られ、大変喜ばしい結果となりました。

総括として、私たちは一年を通してなかなか企画を実行に移すことができず企画が一つしかできなかったということを反省しなければいけません。しかしながら、一つの企画をしっかりとやり遂げることができたことに関して、私たちは一つの進歩であると思っています。同志社エコプロジェクトという名を知ってもらい、企画を行っていくためには地域交流というものが大事にしていかなければと思いました。





external event



### 社会連携

メンバーが参加した地域との交流、連携の取組みを紹介いたします

#### 京都府「京都環境フェスティバル」での講演



12月14日京都府が主催する「京都環境フェスティバル」で京都府からの要請により、同志社エコプロジェクト (DEP) 代表の久野真由子 (経済学部4回生) が講演をさせていただきました。

テーマは「廃棄物」ということから、DEPで行っている同志社EVEでのリサイクル活動、子供達へのアップサイクル工作教室、クローバー祭で食べ残し防止を啓発した紙芝居やカードゲームの活動をご紹介します。

なぜその活動を行っているのか、私たちが抱える問題意識と、それに対する活動の紹介、そしてその成果をプレゼン形式でお伝えしました。

当日は20代~70代と幅広い年代の方が来て下さり、事後アンケートでは、9割以上の方が「非常に良かった」「良かった」と回答下さり、「ゴミ問題について関心が深まったか」との質問には約7割の方が「非常に深まった」、3割の方が「少し深まった」と回答いただきました。

講演を聞いていただいた感想として、多くのみなさまから「エネルギーをもらった」「自分も頑張りたいと思った」など、嬉しいコメントを頂き、活動を発信していくことの大切さを実感した機会となりました。

今後ともDEPではこのような機会があれば積極的に参加し、情報を発信していくことを目指していきます。

#### 気候ネットワーク全国シンポジウム参加

市民が進める温暖化防止~クライメート・アクション・ナウ~



2月14日、15日、同志社大学新町キャンパスにおいて開催された「市民が進める温暖化防止~クライメート・アクション・ナウ~」に参加してきました。2013年から順次公表されてきたIPCC第5次評価報告書の結果を踏まえ、温暖化は待たなしの状況です。そのようななか、私たち、市民がどうすればよいのか、気候の科学や政策、市民活動の最前線でご活躍されている専門家の方からお話をお聞きしてきました。

二日間の日程のうち、一日目では基調講演とディスカッションを行いました。基調講演では「気候変動と異常気象」について、IPCCの第5次評価報告書の第一部会において作成に参画された東京大学大気海洋研究所副所長：大木昌秀さんから、

最新の気候変動の情報について解説いただきました。IPCCでは、気候システムに対する人間の影響は「明瞭」である、と人間の活動により気候変動が起きていることが疑いないといわれています。その中でも日本にとって非常に関連の高い問題として、雨の降り方の変化が挙げられます。温暖化は地球全体に平等に降水量を増やすわけではありません。報告書による雨を必要としているところはますます乾燥し、もう十分だといところで降水量は増加します。日本では、昨年8月、広島で短時間に大量の雨が降ったことで先進国にもかわらず74名もの死者が出るような災害が起っています。温暖化はこのような災害を起こす、大きな要因となります。このまま何もしないと2度上昇するといわれ、現状維持するだけでは2度上昇する時期を遅らせることができません。2度上昇を抑えるには今、やれることは今すぐやるべきであると、報告書の結果は私たちに訴えています。

後半、二回に分けてディスカッションを行いました。前半は今年のパリ合意に向けて世界の動向を、後半は地球温暖化防止に向けて実際に行動されている企業家・NPOの方の活動をお聞きしました。どのお話も素晴らしかったのですが、一番、印象に残っているのが谷口真由美さん (大阪国際大学/全日本おばちゃん党)

の方がおっしゃっていた、「隣のおばちゃんにわかるように話せ」という言葉でした。私たちは環境団体として活動していますが、自分たちの考え方がマジョリティーなのではなくマイノリティーなのだということを肝に銘じて、環境問題は小難しい話し

がなく、生活に密着した問題であることを伝えていきたいと思います。



#### エココン2014参加報告

同志社エコプロジェクトサブリーダー 権理絵 (同志社大学理工学部3回生)

毎年、全国の環境団体、サークルが集まり自分の団体で行っている活動について競い合うコンテストであるecocon2014に参加してきました。

会場は、例年どおり、東京都に所在する国立オリンピック記念青少年総合センターでしたが、同志社エコプロジェクトはコンテスト参加ではなく、来年度の出場、上位進出を目指すための視察という形でお邪魔させていただきました。

今年は北海道から沖縄まで合計32グループが参加していましたが、ゴミ拾い、こどもへの環境教育、廃棄自転車のリユースなど行っている活動はさまざまでした。どの団体も大きな目的を果たすべく、さまざまな発表の工夫を行っていることがひしひしと伝わってきました。

コンテストのほかにも参加団体、一般参加の全員が参加する交流会や日々行っている環境活動を考える分科会などが行われ、環境団体間のつながりや活動を行うための知識を深めることもできたイベントでした。

他大学の環境団体メンバーと話をすることで、自分自身の活動やこれからの活動について考え直すことができたこともとても有意義な時間となりました。ecocon2014に参加による刺激をうけて、同志社エコプロジェクトへの知識、体験の共有を行い、同志社大学の環境活動の活性化に向けて、日々の活動を展開していきたいと思っています。

#### 上京区民祭との連携事業

今年、初めての取組みとして、10月26日(日)に開催された「上京区民祭」に参加しました。一日で約6000人以上の入場者がある祭りです。



当日は、会場中央に設置された環境ブースエリアのゴミ箱の前に立ち、リユース食器やリサイクルできるゴミを分別するゴミナビゲーションを担当しました。例年、区民祭りでは多くの出店が出されており、そこで使われるリユース食器は、ゴミ箱の前で分別誘導をしなければ、間違えて捨てられてしまいます。リユース食器の紛失数は、毎年微増傾向でありましたが、今回DEPメンバーがご協力させて頂くことで、昨年147個であった紛

失数が、今年度は58個となり、大幅に減らすことができました。

また、同志社エコプロジェクト (DEP) の企画としては、ゴミになるものをまた使えるものに変える「アップサイクル」の啓発を目的としたアップサイクル工作教室を開催し、多くの参加者にきていただきました。

アップサイクル工作ブースでは、空き瓶を使ったスノードーム、牛乳パックでつくる竹とんぼ、布の端切れを使ったくみボタンをつくりました。とても子供達に好評で、常にテントは人でいっぱいの状態でした。工作の前には紙芝居でゴミがどれだけ廃棄されているのか伝え、ゴミの現状を子供達や親御さんに知ってもらうことができました。

自分たちの日頃の活動を地域社会の祭りに活かすことができ、また大勢の市民のみなさんとの交流もできたことは学生にとっても有意義な一日となりました。今後ともDEPの社会連携事業として継続していきたいと思っています。



summer camp



夏合宿

環境知識の向上  
短期間でのスケジュールリング  
マネジメント能力の向上  
そしてDEPメンバー間の交流

今年度のDEPの夏合宿は「企画推進力」の強化を図ることを目的とし、地球温暖化を2014夏合宿のテーマとすることで2014年度の半期の成果を確認できる場となりました。

「企画推進力」は今年度春学期の反省点として企画を遂行まで導くスキルを向上させるべき、という意見から強化を図るべき点となりました。そこから運営は「企画推進力」とは何かを議論し、それをDEPの活動目的、企画のゴールを明確化させること、また企画を作るにあたり必要な「POWER」と位置づけ夏合宿を行いました。

一日目は主に春学期の振り返りと環境知識の向上を行いました。まずDEPのOP鈴木一登さんと2014年度リーダーである久野真由子さんのインタビュー形式でDEPの歴史について学ぶことができました。OPと現役である久野さんのお話を聞くことでDEPの活動目的を再確認することができました。またNPO法人気候ネットワークから伊与田昌慶さんを講師にお招きし、環境知識、モチベーションの向上を図ることができた時間となりました。

二日目は約一か月の期間で作られてもらった「地球温暖化」の啓発を行う動画発表会を行いました。動画を作る際には夏合宿のテーマであった「企画推進力」を養ってもらうためスケジュールとチーム構成について重点を置いてもらいながら動画を作成しました。

感情的要素で訴えかける、論理的要素で訴えかける、といった手法で分けて動画を作成し、できあがった動画はどれも環境啓発において必要な「自分たちに関係のあること」をしっかりと訴えることができている動画となりました。

2014年度の夏合宿では、1泊2日という短い時間の中で多くの企画にDEPメンバーが取り組みました。最後の企画であった夏合宿全体フィードバックのワークショップでは、夏合宿運営側が夏合宿参加者に対して求める企画を最後までやり遂げる力、「企画推進力」を運営側が想像した以上に理解してもらえたことを実感することができ、夏合宿にかかわっていただいたすべての関係者の方々への感謝の気持ちがより一層深まりました。



また、参加者側がすべての企画に全力で取り組む様子を見守る中で、夏合宿運営のやりがいを感じました。



当日のタイムライン	
一日目 8月29日(金)	二日目 8月30日(土)
10:30 夏合宿開会	7:00 起床
11:00 OP企画『OP×OP!』	7:30 朝食
12:00 昼食	9:30 夏合宿事前学習成果発表『Global Warning!』
13:00 個別プロジェクト活動中間報告会『FOR FALL』	12:00 昼食
15:30 NPO法人気候ネットワーク 伊与田昌慶様による講演会&ワークショップ	13:00 夏合宿全体フィードバック
18:00 夕食	14:30 交流会
20:00 入浴	15:30 夏合宿閉会
23:00 就寝	

他大学との交流

府大環境デーに行ってきました

大阪府立大学で行われた「府大環境デー」に椿 理絵(理工学部3回生)が、ゲストとして出演してきました。

「府大環境デー」とは6月5日の「世界環境デー」にあわせて、大阪府立大学学生環境団体が中心となって「世界環境デー」の主旨と認知度の向上を図るとともに、環境団体の交流を深めることを目的として開催したイベントです。開催二回目にあたる今年度は行政機関及び、関係企業・団体からの参加もありました。

大阪府立大学で活動するサークル中心のプレゼンテーションに交じって、DEPの活動を関西の大学生に知ってもらうために全体活動である省エネ活動や夏合宿、EVEでの取り組み

などといった取り組み内容を紹介し、また個別PJの紹介と活動の宣伝を行いました。

その場では、私の所属プロジェクト「Create」の活動紹介、宣伝を行い、「ゴミ問題」を身近に考えてもらう啓発活動をするためアップサイクルという手段を選択したことを紹介しました。大きな会場でのプレゼンということもあり、非常に緊張しましたが、私自身やりがいを強く感じました。

大阪府立大学の学生さんは環境活動に熱心に取り組んでいる方が多く、交流するなかで多くの刺激を受けることができました。

他大学との交流は非常に重要なことであり、今後も積極的にこのような交流を図っていきたく感じました。



DEPメンバーからのひと言

<p>人の話をよく聴く</p> <p>法学部政治学科 3回生 富士田有希子</p>	<p>広報部の活動基盤を来年度固める!</p> <p>文化情報学部 3回生 若林美里</p>	<p>粉骨砕身</p> <p>理工学部環境システム学科 3回生 椿 理絵</p>	<p>真面目</p> <p>政策学部 1回生 亀井良樹</p>
<p>子供と共にエコ学ぶ</p> <p>生命医科学部医工学科 4回生 中村拓人</p>	<p>全力疾走</p> <p>経済学部 2回生 山本宗平</p>	<p>環境のことについていろいろと認識を深め貢献できるようにしたい!!</p> <p>法学部 2回生 池垣裕加</p>	<p>セルフマネジメントを怠らない</p> <p>政策学部 2回生 斎藤沙樹</p>
<p>就活を早く終わらしてDEPの活動に専念したいです!</p> <p>グローバルコミュニケーション学部 3回生 李 賢智</p>	<p>INSANITY</p> <p>法学部法律学科 1回生 安藤洋晴</p>	<p>微力ながら、力になれるよう頑張ります!</p> <p>理工学部環境システム学科 3回生 北城佑記</p>	<p>現状維持</p> <p>経済学部 3回生 岩見颯哉</p>
<p>言い訳はやめて動き出す!</p> <p>経済学部 3回生 中川紗希</p>	<p>途中で投げ出さない!!</p> <p>法学部 1回生 田川友理恵</p>	<p>CC革命</p> <p>理工学部電子システム学科 1回生 小間浩嗣</p>	<p>今年も私らしくがんばろー!</p> <p>文化情報学部 3回生 崔 赫仁</p>

新規加入メンバー大募集

どれか一つにでも当てはまる方、ぜひお問い合わせください!

- 環境問題にたいしてなにか行動を起こしたい!
- ボランティア活動へ参加したい!
- 会議スキル・チーム運営スキル・プレゼン能力を向上させたい!
- チームの輪の中で協力してなにかを成し遂げたい!
- 活動を効果的に外部に伝えるメディア関係の活動に興味がある、やってみたい!

Contact

詳しい情報、お問い合わせは下記の連絡先にお気軽にご連絡ください! 事務局、直接の窓口いずれにお問い合わせいただいても構いません。

同志社エコプロジェクト事務局

京田辺校地 医心館1F 環境保全・実験実習支援センター  
TEL: 0774-65-7772 Mail: jt-hozen@mail.doshisha.ac.jp  
同志社エコプロジェクト問合せ窓口 Mail: dep.asumi@gamil.com

